27. 骨シンチグラムが経過観察上，有用と思われた原発性副甲状腺機能亢進症の1例

武藤　英二　　高杉　佑一
並木　正義
（旭川医大・3内）
三橋　英夫　　小川　善輝
西部　茂美
（同・放）
平山　隆三
（同・整外）

患者は24歳女性．昭和51年3月健診で血清 Al-P 高値発見．血清 Ca 11.6 mg/d*l*，P 2.0 mg/d*l* で副甲状腺機能亢進症を疑うも，妊娠中であり無症状のため経過観察．11月より右肩関節部の疼痛，運動制限出現．52年2月男子を正常分娩．5月当科入院．血清 Ca, PALP, 骨X線写真, 骨生検などより，原発性副甲状腺機能亢進症と診断．手術にて甲状腺左葉実質内にある腫瘤摘出．副甲状腺腺腫と組織診断．術後右肩関節部疼痛，運動制限が急速に改善．^{99m}Tc-リン酸化合物を用いての骨シンチグラムでは，X線所見ではっきりしない左第5肋骨病変部が陽性像としてとらえられ，頭蓋骨X線でみられた脱灰像は，とりこみをみる骨シンチの方が術後の改善傾向顕著で RI 集積の減少がみられた．右上腕骨骨頭部の嚢腫様変化は，骨シンチでは，RI 集積の低下した部分がみられ，術後とりこみが増加し，骨再生をあらわす一種の改善傾向と思われた．

28. ^{99m}Tc-MDP (Methylene Diphosphonic acid) の基礎的検討

佐藤　賢一　　前田　淳一
（旭川厚生病院・放）
佐野　博昭　　坂本　　治
（同・内）

^{99m}Tc 標識骨スキャンMDP（科研社）を使用する機会を得たので，基礎的検討を中心に報告する．1) ペーパークロマトグラフィー法で，標識率および安定性を検討した．2) 症例は整形外科入院中の7名で，^{99m}Tc-MDP 10～12 m Ci 静注後，血中消失率・尿中排泄率を測定した．3) 骨集積検討のため体外計測により，第IV腰椎に対する心・肝・腎臓器比を求めた．4) 経時的に6時間までシンチグラムを得た．

結果：標識率は調製後5時間でも97%以上と優れ，その安定性も高い．血中消失率は，1時間7%，2時間4.5%，6時間1.75%，尿中排泄率は，1時間24.5%，3時間55%で，Clearance の速さを示した．L_4 対心・肝比は，2時間で2.5以上，L_4 対腎比はこれに劣るが，3時間でいずれも略々プラトーに達する．経時的骨シンチグラムおよび上記結果より，Weiting time は2時間で可となるが，3時間で像はより鮮明となる．以上より ^{99m}Tc-MDP は，優れた骨スキャン剤と考える．

29. 小腸重複症の1例

大久保　整　　久保田昌宏
湯川　元資　　高橋貞一郎
（札幌医大・放）
中村富久美　　大柳　和彦
（同・小）
戸塚　守夫　　上村　恭一
江端　俊彰　　戸田　和則
（同・1外）
成松　英明
（同・中検病理）

回腸末端の ectopic gastric mucosa を ^{99m}Tc pertechnetate にて診断し，手術により Duplication であることを知った14歳，女子の症例を報告する．検査方法は，前処置なし，RI投与量1mCi scan time は15分，30分，40分，70分で30分の Anterior view scintigraphy が診断に最も有用であった．

Presented by Medical*Online